

I 氏邸訪問記(2018.5.31)

1. はじめに

M 氏、O 氏とともに I 氏邸を訪問してきました。現役時代はよくお世話になっていましたが、定年後は往来が途絶えており、偶然河口無線で顔を合わせたことからオーディオの集まりを再開することになりました。I 氏邸訪問は、かれこれ 20 年ぶりです。その前には、拙宅の方は短時間でしたが立ち寄っていただいております、その経過を[研究室日誌](#)で報告しています。

2. I 氏邸のシステムの概要

I 氏邸のシステムは次のとおりです。

スピーカー：JBL4343

プリアンプ：マッキントッシュ C32

パワーアンプ：マッキントッシュ M2205

CD プレイヤー：マッキントッシュ MCD7007

アナログプレイヤー：トルレンス TD350BC

アナログプレイヤーは Ortofon のアームを取りつけ、お気に入りのカートリッジの Ortofon Gold AE から Ortofon のトランス T1000 経由で C32 に入力されています。



3. I 氏邸のシステムの試聴経過

まず、O 氏、M 氏持参と I 氏の愛聴盤を順次聴かせていただきました。特に、O 氏と I 氏はワーグナーやその他のオペラに造詣が深く、話が盛り上がりました。いろいろな盤を聴かせてもらいましたが、セルのレオノーレ序曲やクライバーの蝙蝠の再生では説得力がありました。さらに CD もいくつかかけられましたが、クナッパブッシュのワルキューレが I 氏のお気に召したようです。

ここで CD の良さが感じられた反面、アナログの鮮度感がもっとあっても良さそうに
思い、プリアンプのトーンコントロールや JBL4343 のユニットのレベル合わせにつ
いて質問しましたが、特に変わったところはなさそうです。

途中、用を足して戻ってききましたら、プレイヤーのベルトが外れ、かけなおしてもす
ぐに外れるとのことでした。ベルトを触ってみると弾力性が失われているように感じ、
さらにターンテーブルを外してもらってスピンドルの先を触ると油気がないように
感じましたので、潤滑油の枯渇によりベルトで回し切れないものと推察し、ベルトの
交換と純正の潤滑油の補充をお勧めしました。

この後は主に CD を聴いていきましたが、今月演奏を聴いてきた[辻井伸行](#)の最新録音
の CD をかけてもらいますと、低域までしっかり伸びており、鮮度感のある切れの良
い音がしましたので、先ほどまでのアナログの物足りなさは、以前使用されていた
P3 の音を知るだけに、アンプやスピーカーの調整の問題ではないことが確認できま
した。この後も CD を聴きながら話が進み、楽しい時間を過ごさせていただきました。

4. まとめ

I 氏の聴かれる音楽ジャンルにあった構成になっており、その方向性は間違っていま
せんが、メンテナンス上の問題があるようでした。調整後改めて訪問したいと思っ
ておりますが、その前に拙宅にお越しいただくことにしました。

以上